

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 シンポジウム
「未来社会を見据えた人文学・社会科学分野における学術知共創の課題について」

パネルディスカッション
「未来社会を見据えた人文学・社会科学分野における
学術知共創の課題について」

未来の人文学

令和4年12月15日

名古屋大学人文学研究科
中村靖子



「人文学が直面する課題」

①「総合知」の創出・活用



社会科学・自然科学を巻き込むことが必要

②「たこつぼ」と言うけれど……



専門知を**編集**する役割が必要

③「何の役に立つのか？」と問うけれど……



研究の出発点にはどのような問いがあるべきか
研究のおもしろさ vs 成果の確かさ

④「大きなテーマ」への応答
現代社会の重要な課題とは？



人間の「知」のあり方は技術革新と共に変革を遂げてきた。

- ・現代における技術革新の特異性
- ・今「知」はどのように変容しつつあるのか？



人文学[側]だけの問題なのか？

問いの探究、展開のために、専門化・細分化は必然



専門知を編む＝知を組み直す



固定観念の解体→総合知の創出

学際的共同研究ができるまで：一例

名古屋大学総長裁量経費プロジェクト
(2005、2007、2009) (代表：中村)

大平英

科研 (萌芽) (2006-7) (代表：中村)

大平英



中村
立花
大平英

名古屋大学学術振興基金による出版(2010)

フロイトの失語論翻訳(2009)

中村 大平英



中村 立木

研究成果公開促進費
による出版(2011)

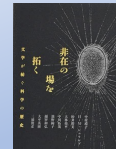
科研基盤 (C) (2011-13年度)
(代表：中村) 大平英

科研(萌芽) (2015-17年度)
(代表：中村) 大平英

科研基盤 (B) (2016-18年度)
(代表：中村)

大平英

大平徹



研究成果公開促進費
による出版(2019)

中村 池野
大平英

科研基盤：特設 (B) (2019-21年度)
(代表：中村)

池野

山本

大平英

科研基盤 (B) (2019-22年度)
(代表：中村)

大平英

大平徹

学術知共創プログラム (2022-27年度)
(代表：中村)

平田 金 田村 鈴木 大平徹 岩崎 伊東 森 立花 高橋
南谷 和泉 池田 長井 鳥山 ポーヴィウ 立木 坂口 武田 池野 山本 大平英

名古屋大学文学研究科シンポジウム(2014)

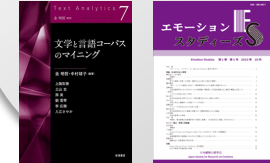
中村



中村 大平英
研究成果公開促進費
による出版(2015)

先導的人社研(2017-22年度) (代表：大平英)

中村 平田 伊東 山本
高橋 長井 鈴木



大平英
伊東
中村

シン・人文学研究会(2021年度)

伊東 中村 岩崎
南谷 鳥山 大平英



中村 平田 伊東
池野 岩崎 鳥山
大平徹 山本 大平英

名古屋大学学術図書出版助成
による出版(2022)

未来の人文文学／学問のかたち

① 総合知創出のために

仲間：共通の目的、共通の関心・テーマ

② 「たこつぼ」と言うけれど…

専門知の編集が総合知創出につながる
＝専門知のおもしろさ(魅力)を語る言葉を持つ

③ 研究の「確かさ」とは？
人文学の強みとは？

確かさ 概念や仮説が信頼できる/改良できる
(「人権」「尊厳」「自由意志」「民主主義」etc.)

強み

憎悪や怒り、暴力を分析する概念・仮説を持つ
幸福や希望、赦し、和解について語る言葉を持つ
芸術を学知に繋ぐ/technèやKunstの二つの意味を繋ぐ

④ 共同研究のメリット
☆自分たちが置かれている状況の問題を共有
☆自己検証＝自分がやりたいことをやるための理論武装
☆知の愉しみ！ 知らなかったことを知り、分からなかったことが分かるようになる
「これを知る者は、これを愉しむ者に如かず」

余白



共同研究

☆主題の深化・多面化、方法の発見、新しい展開
☆ 5年、10年後に自分を助けてくれる＝役に立つ！
☆多世代の研究者との協働：研究者としての長寿
＝思考の歴史性(学説史・概念史の重要性)
＝次世代の人文知へ繋ぐ

「情けは人のためならず／共同研究は人のためならず」